

藤沢小学校 教科名 (国 語)

# 学ぶ子・学べる子・学び合える子の育成

(副題：特別支援教育の視点に立った学習指導の改善)

## 1 ねらい

学習の基盤となる基礎基本を徹底するとともに、系統的な表現力を育成することで学習意欲を高める。

## 2 取組概要

### (1) 研修の充実による授業の改善

ア 特別支援教育の視点に立った児童一人一人に応じたきめ細やかな指導とわかる授業の推進

イ 1時間の学習過程を見通した指導法の工夫と改善

(ア) ノート指導による課題の明確化と学習の振り返り

(イ) 1時間の学習の流れを意識した計画的な板書

(ウ) ICTの活用

ウ 外部指導者を招聘した校内授業研究会の実施

(ア) 低学年ブロックのねらい：基礎基本の重視（順序を考えて話す、聞く）

(イ) 中学年ブロックのねらい：基礎基本の重視と表現力育成

(自分の考えをもち、表現する)

(ウ) 高学年ブロックのねらい：表現力の育成と活用

(討論会の前段階として相手を納得させる話し合い)

エ 県、深谷市等の資料の積極的な活用による研修の充実

### (2) 学習規律の徹底と学習環境の充実

ア 言語活動を充実させ表現力を高めるための環境整備

(ア) 全学年共通理解による「聞き方、話し方」指導の統一

(イ) 国語辞典の積極的活用

・3年生以上は全員、個人所有の物を教室に置かせ、机の横に下げる等、すぐに使える環境にする。

・国語の導入時の意味調べやスキルタイムで活用する。

・知識の「見える化」(調べた語句に付箋紙を貼る、赤線を引く等)により、学習意欲を高め達成感を味わわせる。

(ウ) 全学年の共通理解による音読指導

・音読カードに学年の系統性をもたせ、項目設定を見直す。

・取り組み方の統一(3回以上、長い文章は意味段落ごとに、暗唱させる等)

イ ノート指導充実のための「国語ノートの書き方」の見直し

(ア) 全学年の共通理解によるノート指導の統一

(イ) 児童への「国語ノートの書き方」配付とノートへの添付による意識化

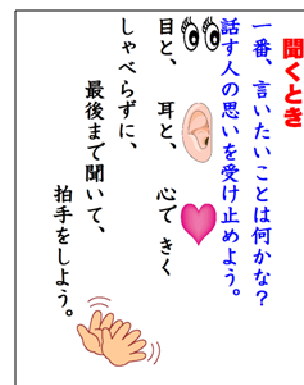


図1 掲示物「聞き方」

(3) スキルタイムの設定 (週 1 回)

- ア 国語の教科書の文章等の視写
- イ 3つの達成目標の問題を基に作成した短作文ワークシート
- ウ 各ブロックごとの重点指導内容の設定

(ア) 低学年：語彙を増やす

- ・ 1年：言葉集め、「あ」のつく言葉、しりとり、単語のフラッシュカード等
- ・ 2年：漢字タイム、カタカナタイム、短作文等

(イ) 中学年：意味調べ

(ウ) 高学年：コラム学習 (5年後半から6年)

(4) 家庭学習の充実

- ア 全学年の共通理解による各ブロックごとの「家庭学習のすすめ」の作成
- イ 全学年の共通理解による各ブロックごとの「家庭学習の内容」の作成
- ウ 家庭学習の取組時間の目安の設定

(学年×10分以上)

エ 家庭学習の内容の明確化

「音読・その日の課題 (漢字、計算、意味調べ、自主学習等)・読書」

(ア) 学年で内容を検討し、連絡帳、自主学習ノート等の表紙裏に添付する。

(イ) 低学年では、スキルタイムや国語の学習の課題として語句の意味調べを実施する。毎週1回 (金曜日)、家の人に聞き、ノートに書く。必ず、評価 (丸付け、印、授業での活用等) を行う。

(ウ) 中、高学年では、学習計画表と学習日記を活用し家庭学習習慣の定着を図る。

オ 保護者への啓発

(ア) 学校だより、学年便りへの記載による家庭学習の充実についての周知

(イ) 家庭学習調査週間の設定と結果の公表による保護者との連携

- ・ 第1回 (9/26~9/30)：調査結果を学校だより11月号に掲載し、11/5フリー参観時に、資料として配付する。
- ・ 第2回 (10/31~10/18の平日5日間)：調査結果を学校だより12月号に掲載し、12/1授業参観懇談会時の資料とする。

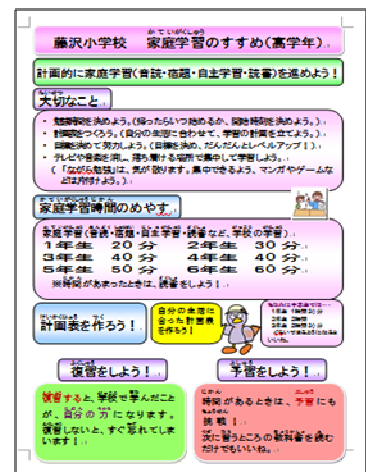


図 2 家庭学習のすすめ(高学年)

4 成果 等

- ・ 学校課題研究への取組により学校全体で統一して取り組む課題について共通理解し、各学年、ブロックで今までの取組について改めて見直し、全教職員で取り組むべき指導事項が明確になった。